

平成25年度 学校関係者評価書

学校名	和歌山市立 西浜中学校
作成日	平成26年 2月 19日

1 教育目標

「創造力に富んだ心豊かでたくましい生徒の育成」「自ら学び、ともに生きる」

2 学校の自己評価についてのご意見

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標に対する意見	目標は適切である。	目標は適切である。	目標は適切である。

取組の状況に対する意見	水軒浜の松の植栽活動、サマーフェスティバル、文化祭、吹奏楽コンサート、さらに、PTAバザーなどのとりくみは、歴史もあり、地域に定着した活動になっている。	生徒会を中心にした取り組みや、水軒浜の松の植栽活動・職場体験等、市民性を育てる活動はよく頑張っているのではないか。	全体的によいと思われる
検証結果に対する意見	昨年同様、学校行事以外でも各種ボランティア活動への積極的な活動を期待したい。 5年間にわたって取り組んできた「水軒浜の松の植樹事業」がくぎりを迎えました。 しかしながら、除草作業等の管理作業や、他の地域への活動場所の拡大や地域防災の取り組みなど、今後の活動について多面的な検討をすすめていってほしい。	生徒会のスローガンである「笑顔いっぱい、優しさいっぱい、楽しさいっぱいの西中に」を意識しながら、いじめなくそうデーの取組やプルタブ集め(車いすの寄付等)、つながり文化祭への参加などが「豊かな心を育てる」ことにつながっているということ、思いやりや助け合いなどの行為が「優しさいっぱい」につながっていくという思いを大切に、生徒会活動を進めていくことが大切。頑張ってくれている。	何らかの課題を持つ生徒に対する対応は、生活指導や特別支援教育担当の教員を中心に、粘り強く生徒に関わり、向き合いながら、対応してくれている。 地域でも気になる生徒を見かけるときもあるものの、どう対処していいか判断に困るときもある。 心の育成とあわせて、「生きる力」をしっかりと育てていくためにも、学校における「学び」を大切に考える生徒の輪を広げていってほしい。
改善方法に対する意見	昨年度、3学期制へと移行するなかで、限られた活動時間を有効に使う、「総合的な学習の時間」や学級活動の時間を含む特活について、それぞれの学年に見合ったものを、系統だてて進めていけるように、学校全体として取り組んでいく。	生徒会を中心にした取り組みは様々な形で進められている。 そのなかで、個々に取り組まれているものが、それぞれの具体的な目標の達成にどうつながっていくのかという見通しを持って、今後とも、忙しい中ではあるものの、頑張ってもらいたい。	生徒にしっかりと「生きる力」を育てていくために、学級や学年といった集団の力の向上を進める取組をすすめるとともに、基礎的な学力が十分身につけていないと思える生徒に対して、日頃からの声かけや補充的な学習の充実を考えていく。

3 其他のご意見

学校でになうべき学力形成は、9教科の学びにはじまり、道徳教育や特別活動、学校行事や学年行事、体験的な活動や部活動など、様々な活動を通じて養われるもの。こうした力が「生きる力」として、将来の人間形成に大きな影響を与えるのではないか。世界に通用する人材育成の素地を作っていくこともこれからの課題だ。